みなさん、こんにちは、アムナです。

   日本語のスピーチコンテストに出るのが 好きなんですが、私が 何を話したら、みなさんに 楽しく聞いて いただけますか。トピックを選ぶのは そんなに かんたんでは

 ありませんでした。いろいろ 考えて、決めました。今日は 私の日本語の先生について 話そうと 思っています。みなさんに 聞いて もらいたいです。

私は アメリカに 住んでいる クウェート人と 日本語を 勉強していま す。

その方は 私の 普通では ない 日本語の先生です。毎週 宿題を たくさ ん もらいます。新しい言葉と漢字を 覚えたり、次の授業を予習しておいたり、 「みなしごのハッチ」の絵本を読んだり、しなければなりません。それだけじゃな くて、みなさん、

これを しっていますか、「百万本のバラの花を あなたに あ なたに あなたに あげる」。「百万本のバラ」という歌なんですよ。上手に 話 せるように なるため、

先生が すきな 古い日本の歌の文法や 発音なども 学 んでいます。

ある日、宿題は 30ページで 私が 2ページを 忘れてしまったとき

「宿題を 全部 しなかったら、出さなくても いいですよ。もう 日本語を やめなさい。あなたは まじめな学生では ない ですから」と 先生からの ボイスメールでした。時々、私は かなしく なってしまいました。日本語能力試験を受けたあとで、やめようと 思っていました。

でも、去年の12月にロンドンへ 日本語試験のN5を 受けに 行った とき、

私達のために、アメリカからわざわざ 来てくれた先生と「百万本のバラ」

を歌った り、将来について 話したり して、とても うれしかくなりました。

試験が終わっ て、すてきな 思い出と一緒に 国へ帰えりました。

そして 試験に 合格して、もう 一度 がんばろうときめました。

みなさんは 私の先生が 厳しいと 思うかもしれませんが、実は、わたし

も そう思いますが、先生は 本当に学生が 好きです。好きですから、しかりま

す。私は もう 先生に なれました。N2 まで がんばります。

みなさん、聞いていただいて、まことに ありがとうございました。